

2012年度受託研究概要報告

垂水区役所庁舎内サイン表示改善についての研究

研究メンバー

赤崎正一 デザイン学部ビジュアルデザイン学科教授
高台泳 デザイン学部ビジュアルデザイン学科助教

委託者

神戸市・垂水区

研究概要

本研究の目的は、市民サービス向上の観点から区民にとってわかりやすい区役所・「デザイン都市・神戸」を推進する区役所を目指し、特にサイン表示においてデザイン性の向上をはかることである。デザイン対象は神戸市垂水日向1番地の「レバンテ垂水2番館」の1階から3階までの「垂水区役所庁舎」区域である。主な研究範囲は「窓口への誘導・案内デザインの提案」である。

8月に第一回目の現地調査を行い、従来のサインに対して1) サインに統一感がない 2) サインが多すぎる 3) 課名と事業名が混在している 4) 高齢者にとって文

字が小さい 5) 色分けによる区分が不十分である 6) フロアの位置情報が不十分である 7) 障害者への対応が不十分である、の諸問題点を確認した。

なお、これらの問題は、同じフロアに垂水区役所と垂水区図書館、勤労市民センターの、異なる三つの施設が混在している「レバンテ垂水2番館」の特殊なスペース構成のゆえに、さらに深刻に受け止められた。

以上の諸課題を改善するために、定めたデザインコンセプトは次のとおりである。1) サインに統一感がないことについては、メイン案内板を中心に、各階の案内をサブシステムに位置づけること。2) サインが多すぎることについては、サインの精選を行い、数が少なくなった分、大きなサイン表示にすること。3) 課名と事業名が混在していることについては、課名は残し、できるだけ事業名中心の表記に変えていくこと。4) 高齢者にとって、文字が小さく読みにくいものについては、サインや申請用紙の記載例を大きくし、読みやすくすること。5) 色分けによる区分が不十分であることについては、各課ごとに色分けシステムを新たに考え、案内サインに反映すること、である。



垂水区総合庁舎総合案内サイン
w900cm x h1430cm

研究成果

本研究では従来の問題点を改善し、区役所の案内サービスの向上のために、新たなサイン案を制作・提示した。その内容は以下の通りである。

- 1) 区役所全フロアの総合案内サイン：新たに制作したフロアマップと、近隣マップを入れて、区役所全体の構造が一目で把握できるようにした。
- 2) 区役所の各フロアの案内サイン：課名・事業名を大きく表記すると同時に、平面図も入れることで、各課の場所や事業内容が同時に把握できるようにした。
- 3) 各フロアの平面図サイン：全てのフロアを表示し、エレベーターの横に設置して現在のフロアがわかるように平面図を2)のサインよりもさらに大きく示した。
- 4) 2階・3階のたて看板：2階と3階の、特に来庁者の多い窓口への案内を目的にしたものである。設置場所は中央階段前とエレベータ前である。
- 5) 各課の窓口案内サイン：課名と事業名を同時に示すが、できるだけ事業名を大きくして、業務内容がよりわかりやすいようにした。

なお、以上のサインとは別途に、掲示場所に合わせて、現在地から見た方位で方向の変わった各フロアマップのサンプルも作成した。

新たなサインの考え方においては、来庁者への案内をより円滑にするために、色を大きく強調し、色名だけでスタッフが市民に対して案内ができるように工夫した。なお、従来のサインより大幅に文字数を減らす代わりに、文字サイズをより大きくし、デザインにメリハリをつけた。そして各フロアごとの平面図についても、グラフィックを意識しながら色分けを強調することで、デザイン性と機能性の両方を求めた。